

## (10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

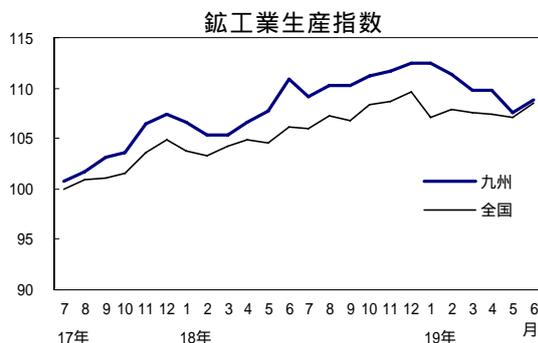
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 5 月）	今回（平成 19 年 8 月）	
住宅建設	大幅に増加	減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

電子部品・デバイスは、車載向けの高付加価値LSIやデジタルカメラ向けのCCDなどが好調だったものの、ゲーム機向けが不調だったことから、減少している。輸送機械は、船舶は高水準の受注残を抱え、フル操業を続けているものの、自動車はモデルチェンジ前の操業度の低下や、製造ラインの改修等があったことから減少している。一般機械は、半導体製造装置やFPD製造装置が国内外向けの受注が好調なことから増加している。食料品・たばこは、清涼飲料水が新製品の投入効果等から増加しているため、全体でも増加している。化学は、大手医薬品工場や石油化学製品工場において大規模な定期修理があったことから減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年6月の九州は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

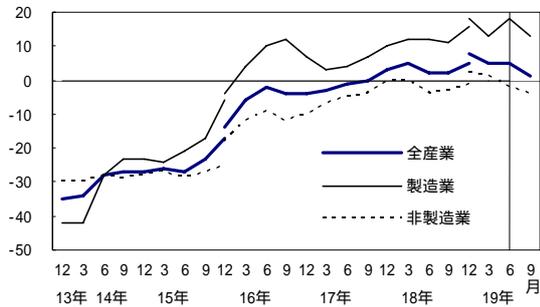
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
電子部品・デバイス	14.9	6.0	10.4	8.8	40.6
輸送機械	11.7	2.7	8.3	6.8	16.6
一般機械	11.0	4.7	0.6	2.7	3.3
食料品・たばこ	10.8	0.5	0.6	1.4	1.8
化学	8.5	2.3	5.4	1.8	8.9
鉱工業	100.0	0.4	2.2	1.4	1.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4～6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

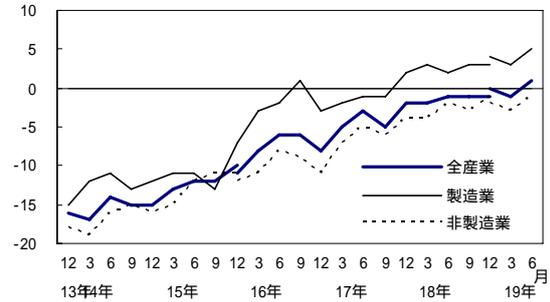
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



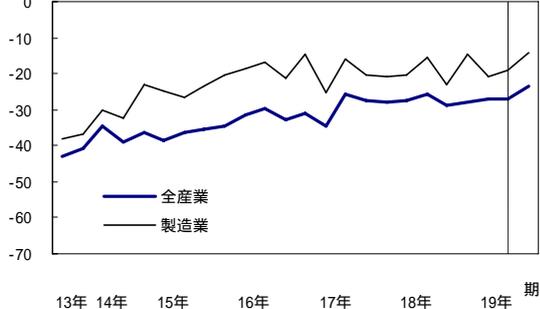
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年9月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「自動車関連の需要が落ち着いてきた。現状は仕掛品の納期対応に追われている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

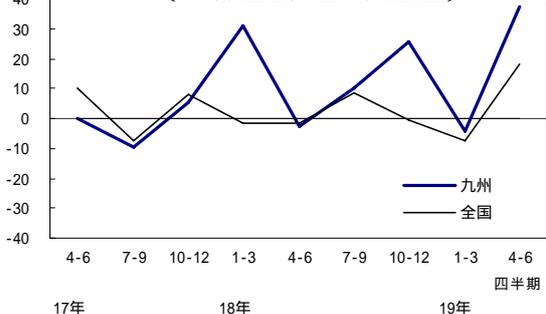
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	7.7( 3.4)	19.0(3.0)
製造業	13.0( 0.8)	36.1(2.7)
非製造業	3.8( 5.1)	7.9(3.3)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

(%) 建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、食料品は生鮮食品や和・洋菓子の動きが好調で前年を上回ったものの、衣料品は月前半に気温が低めに推移したことから春夏物の動きが鈍く、前年を下回ったことから、全体でも前年を下回った。5月は、飲食料品や家具、化粧品に動きがみられたものの、主力の紳士服、婦人・子供服など衣料品の動きが鈍く、前年を下回ったため、全体としても前年を下回った。6月は、衣料品は夏のセールが月末から始まったことや、空梅雨で天候が良く、夏物衣料の動きが良かったことなどから前年を上回り、飲食料品も、中元の早期受注の動きが好調で、前年を上回ったことから全体でも4ヶ月ぶりに前年を上回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の7月の売上高は、前年同月比で4.7%の減となっている。スーパーは、旅行用品や日傘、手袋といった身の回り品に動きがみられたものの、飲食料品、衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

### 景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「7月の予約は順調に入っていたが、台風の影響による沖縄・九州内・東京方面の取消しが予想以上に大きく影響した(旅行代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

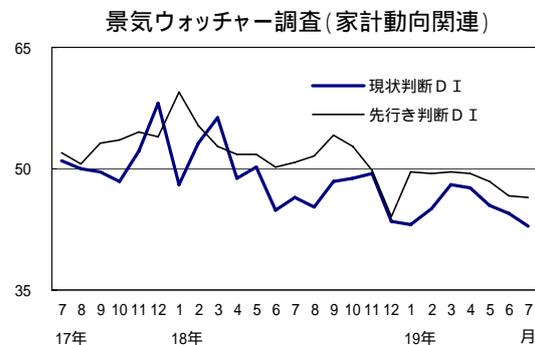
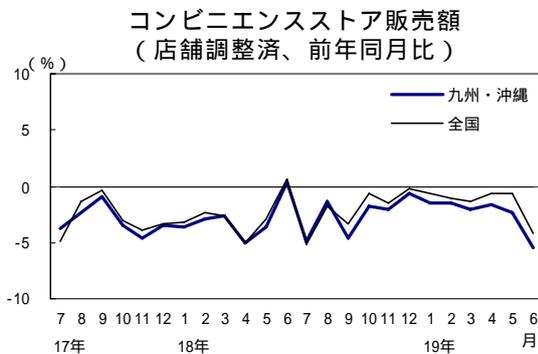
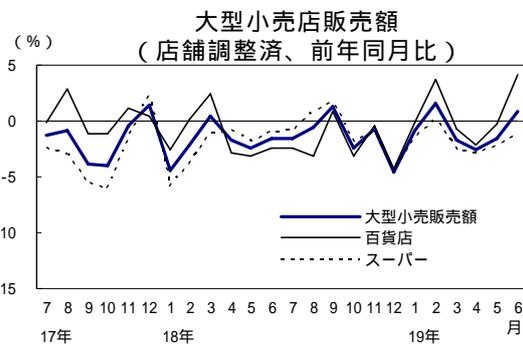
(前年同期比、%)

	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月
大型小売店	0.4	2.8	0.5	1.1
百貨店	1.7	2.8	0.7	0.5
スーパー	0.5	2.8	1.3	2.1
コンビニ	3.6	1.5	1.7	3.2
景気ウォッチャー	46.7	47.2	45.4	45.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

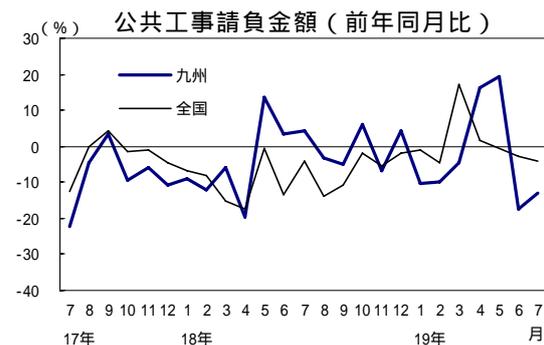
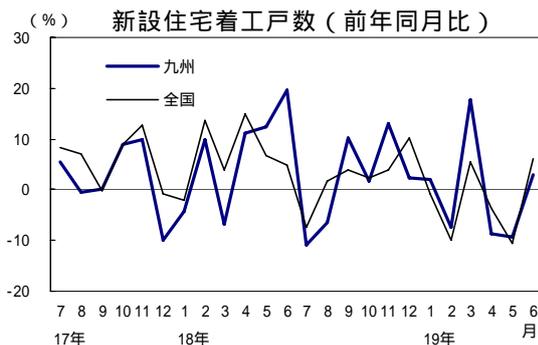
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

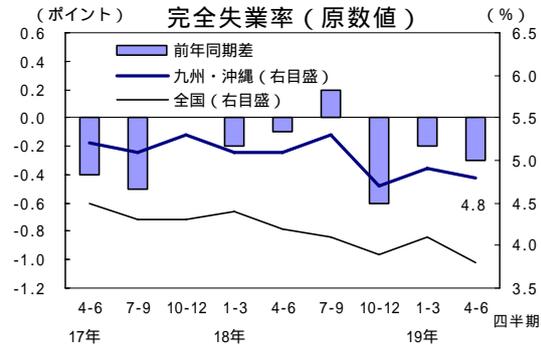
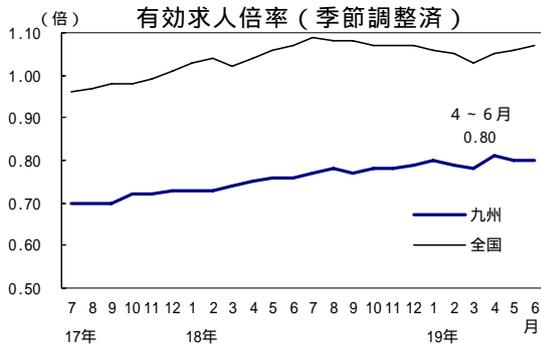


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(7月)[雇用関連(現状)]

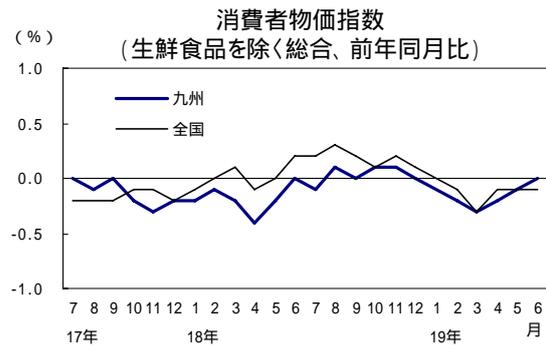
「新規求人数、新規求職者数とも大きな変動はない。求人内容も派遣請負が全体の20%とそう変化がない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年7-9月	10-12月	19年1-3月	4-6月	19年7月
倒産件数	269	281	268	326	101
(前年比)	0.4	18.6	3.5	14.0	9.8
負債総額	483	1038	706	1010	214
(前年比)	57.9	25.7	43.9	1.0	12.2



景気ウォッチャー調査(7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・客との話の中で、景気が良くなってきたという話が先月まではあったが、今月はそのような話が減ってきた(住宅販売会社)

<先行き>

・住民税の大幅増税、ガソリン代の値上げから、おやつ関係の購入が控えられるため、若干悪くなる(コンビニ)

#### 景気ウォッチャー調査(合計)

